

チャレンジ 武蔵野人

にしまいこ
西舞衣子さん

東京都ラグビースクール
選抜女子代表

会場を沸かせる魅力あふれる 選手になりたい

五郎丸フィーバーでラグビーが再注目されて以来、日本では競技人口の少なかった女子ラグビーにも注目が集まっている。7人制による五輪正式種目となった女子ラグビーの未来を担う若い世代も台頭し始めた。

兄の影響でラグビーを

東京都内のラグビースクールに所属する女子中学生で構成される東京都ラグビースクール選抜女子代表。そのキャプテンでありチームの司令塔・スタンドオフを務めるのが、市立第五中学校3年生の西舞衣子さんだ。

小学1年生の時、ラグビーをやっていた2歳上の兄を見て、「私もやってみたい」と思い、武蔵野ラグビースクールへ。ラグビーは体と体がぶつ



西舞衣子 (にしまいこ)

2004年生まれ。武蔵野市在住。武蔵野市立第五中学校3年生。ワセダクラブラグビースクール在籍。小学1年生からラグビーを始め、中学1年の1月より東京都ラグビースクール選抜女子代表。



暑さにも負けず練習に打ち込む

夢はW杯、五輪出場

東京都ラグビースクール選抜女子代表は、昨年末に行われた第23回全国ジュニア・ラ

かり合うハードな競技だが、西さんはむしろ「頭を使うところが面白い」と言う。特に西さんが務めるスタンドオフは、チームの司令塔であり、オールマイティなプレーが求められる。「自分からトライを取りに行くポジションではないですが、自分の回したパスがトライにつながった時はうれしいですね」
練習中に肩甲骨を骨折するなど、ケガも絶えない。「中学の友だちからは、痛くないの?といった心配されています。でも、ラグビーを辞めたいと思ったことはないです。つらさよりも、楽しさのほうが勝っているのだから」

正確なパスとキックが武器



ラグビーフットボール大会女子の部で見事優勝。6月の東日本地区予選では3位。秋から冬の大会に向けて健闘が期待される。

この夏、ニュージーランドで語学留学を体験し、現地でラグビーの試合も観戦した西さん。「体の大きさも、体がぶつかる時の当たりの強さもまるで違う。やっぱり本場はすごいなと思いました」

来年はラグビーワールドカップも開催され、その翌年には東京オリンピックも控えているが、「私もいつかは出てみたい。やれるところまでやってみたいですよ」と目を輝かせる。憧れの選手、ニュージーランドのダミアン・マツケンジーのように「会場を沸かせる魅力あるプレーができる選手になるのが目標です」
あどけない笑顔の奥に、強い意志がみなぎっていた。